

豪ドル安円高傾向にある最近の豪ドルについて

2018年2月以降の豪ドル円レートは豪ドル安円高が進行

- 2018年2月以降、米国の金利上昇により米豪10年国債の金利差が徐々に拡大していることや、米中貿易摩擦による投資家心理が悪化していること等を背景に、豪ドル相場は軟調な地合いが続いています。
- 足元の豪ドル円レートは1豪ドル=79.4円と、2016年11月以来の1豪ドル=80円割れの水準にあります。

【豪ドル円レートの推移】

(2015年1月初～2018年10月26日)



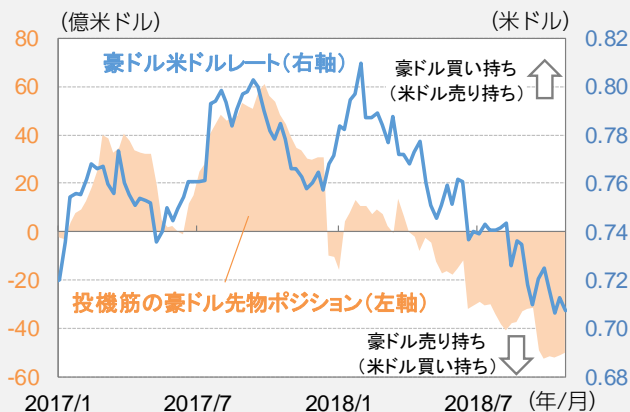
(出所) ブルームバーグ

投機筋による豪ドル安要因は最終局面に入っている可能性

- 豪ドル米ドルレート (左図青) は、豪ドル先物に対する投機筋のポジション (左図オレンジ) に連動して推移する時期が多く見られ、投機筋の動向が豪ドル相場に一定の影響を与えていると考えられます。2017年後半以降、豪ドル先物ポジションの売りが続いており、市場参加者の間で豪ドル相場に対する弱気見通しが台頭しています。
- 実際、足元の豪ドル先物への売りポジションは2015年3月以来の高水準にあります (右図)。ただし投機筋の豪ドル売り持ち残高は、過去の豪ドル安局面での売り持ちポジションのピーク (50~60億米ドル) に近い規模に達しており、豪ドル弱気相場の最終局面に入っている可能性を示唆しています。

【豪ドルとIMM通貨先物ポジション】

(2017年1月初～2018年10月23日)

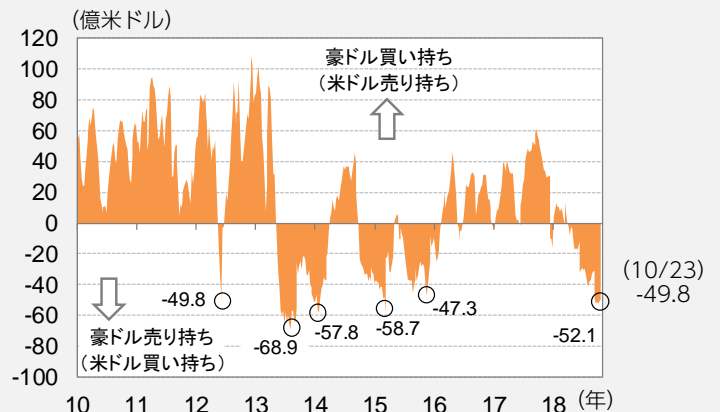


(出所) ブルームバーグ

※豪ドル/米ドルレート、豪ドル先物ポジションともに週次データ

【IMM通貨先物ポジション】

(2010年1月初～2018年10月23日)



(出所) ブルームバーグ

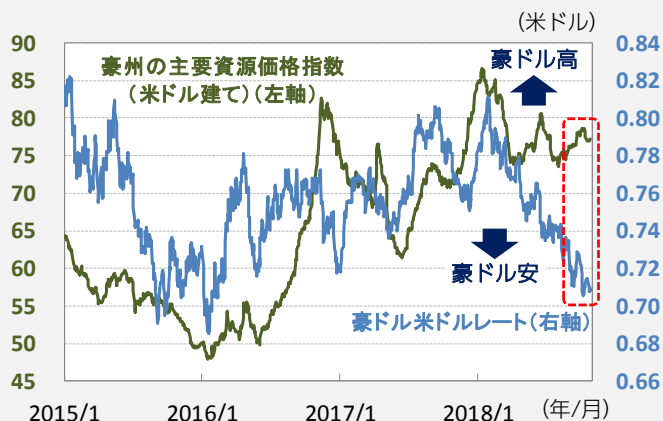
※投機筋の豪ドル先物ポジションを表示

豪ドルの対米ドル相場と主要資源価格指数・交易条件との関連性

- 豪ドル相場（対米ドル）の軟調が続く一方、豪州の主要な輸出資源価格は底堅さを維持していることから、豪ドル相場と資源価格の乖離が拡大傾向にあります（左図）。資源国通貨である豪ドル相場は、輸出資源価格との連動性が高い傾向がみられるものの、足元では米国との金利差要因や投資家心理の悪化などから、連動性が低下しています。
- 交易条件*と豪ドル相場も長期的に見ると連動性が高い傾向にあります（右図）。足元では交易条件が改善しており、今後貿易収支に一層の改善が見られれば、豪ドル相場は上昇し乖離幅を縮めるものと考えられます。
*貿易による利益を見る指標。この指数が上昇すると利益が大きくなることを意味します。

【豪州の主要資源価格指数と豪ドル相場】

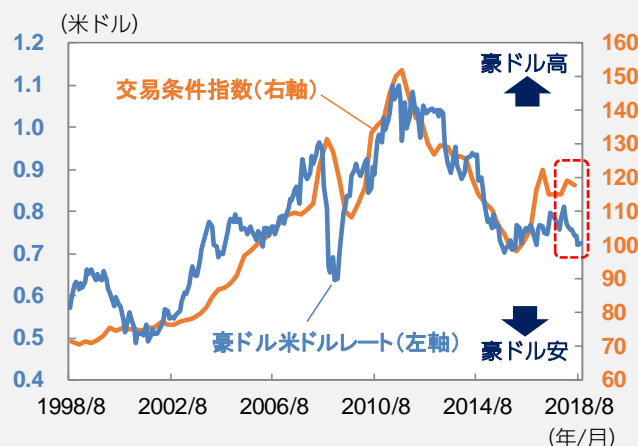
(2015年1月初～2018年10月26日)



(出所) ブルームバーク
※資源価格指数は輸出金額に基づく加重平均値、2018年10月25日まで

【交易条件と豪ドル相場】

(1998年8月初～2018年9月末)





(出所) ブルームバーク
※交易条件指数は四半期ベース、2018年6月まで

TOPIC

統計データでみる「豪ドルの投資タイミングと損益」

ここでは、2000年以降の毎月末を開始時点として、3年間豪ドルに投資した場合の損益をまとめました*。その結果、投資開始時の豪ドル・円レートの水準によって、投資損益の傾向が大きく異なることが見て取れます。

例えば、1豪ドル=80円を切る水準で投資を開始した場合では、すべて（80回/全80回）のケースでプラス収益となっています（の部分）。

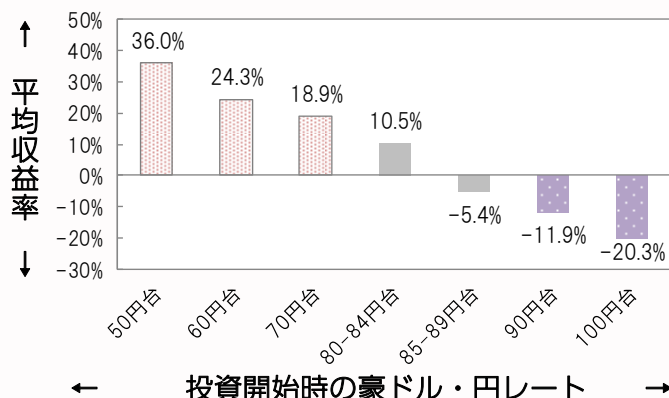
一方、1豪ドル=90円以上の水準で投資を開始した場合では、3年後ではすべて（51回/全51回）のケースがマイナス収益となっています（の部分）。

* 2000年1月～2015年9月の各月から豪ドルに3年間投資した、189のケースの投資損益を集計

※上記は過去の実績を示したものであり、将来の成果を保証するものではありません。

豪ドルに3年間投資した場合の平均収益率 (為替レート別)

(2000年1月末～2018年9月末 (月次))



3年間投資	50円台	60円台	70円台	80-84円台	85-89円台	90円台	100円台
ケース数 (計189回)	5回	35回	40回	31回	27回	41回	10回
プラス収益の回数	5回	35回	40回	28回	10回	0回	0回
勝率	100%	100%	100%	90%	37%	0%	0%

(出所) ブルームバーク

【当資料に関する留意点】

- 当資料は、市場環境に関する情報の提供を目的として、レグ・メイソン・アセット・マネジメントの情報を基に、ニッセイアセットマネジメントが作成したものであり、特定の有価証券等の勧誘を目的とするものではありません。また、金融商品取引法に基づく開示資料ではありません。実際の投資等に係る最終的な決定はご自身で判断してください。
- 当資料は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。
- 当資料の内容は作成時点のものであり、将来予告なく変更されることがあります。
- 当資料のいかなる内容も将来の市場環境等を保証するものではありません。
- 当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。
- 当資料に投資信託のグラフ・数値等が記載される場合、それらはあくまでも過去の実績またはシミュレーションであり、将来の投資収益を示唆あるいは保証するものではありません。また税金・手数料等を考慮しておりませんので、実質的な投資成果を示すものではありません。
- 投資信託は投資する有価証券の価格の変動等により損失を生じるおそれがあります。
- 投資信託の手数料や報酬等の種類ごとの金額及びその合計額については、具体的な商品を勧誘するものではないので、表示することができません。

<設定・運用>



ニッセイアセットマネジメント株式会社

商号等：ニッセイアセットマネジメント株式会社

金融商品取引業者

関東財務局長（金商）第369号

加入協会：一般社団法人投資信託協会

一般社団法人日本投資顧問業協会

ニッセイアセットマネジメント株式会社

コールセンター 0120-762-506（受付時間：営業日の午前9時～午後5時）

ホームページ <https://www.nam.co.jp/>